

3. 果樹類

(1) りんご

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
カーメックスD	雑草茎葉散布	雑草生育期	1回(DCMU1回)	
	全面土壌散布	雑草発芽前		
カソロン粒剤6.7	雑草の株元又は成長点に局所処理する。	春期(雑草発生始期～生育期)	1回(DBN1回)	
ザクサ液剤	雑草茎葉散布	収穫21日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート及びグリホサートP3回以内)	
サンダーボルト007	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内、ピラフルフェンエチル3回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)
タッチダウンiQ	雑草茎葉散布	収穫5日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつを除く)
バスタ液剤	雑草茎葉散布	収穫21日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート及びグリホサートP3回以内)	
プリグロックスL	雑草茎葉散布	雑草生育期(但し、収穫前日まで)	5回以内(ジクワット5回以内、ハラコート5回以内)	果樹類(かんきつを除く)
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつを除く)
ロックス	全面土壌散布	雑草発生前～発生始期(但し、収穫30日前まで)	1回(リニユロン1回)	
草枯らし	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 「使用回数」は、農作物の生産に用いた種苗のは種又は植付け(は種又は植付けのための準備作業を含み、果樹、茶その他の多年生の植物から収穫されるものにあつては、その収穫の直前の収穫とする。)から当該農作物の収穫に至るまでの間(「生育期間」という)において農薬を使用することができる総回数である。

注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	サンダーボルト007 (グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ヒラフルフェンエチル 0.16%)	1年生及び多年生雑草 400~600ml	1. 水 100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. りんごでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	タッチダウン i Q (グリホサートカリウム塩 44.7%)	1年生雑草 250~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水 25~50ℓ に溶かし専用ノズルを使用し、噴霧器で10aに均一散布する。	1. りんごでの使用時期は収穫5日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. タッチダウン i Qは魚毒に注意する。
	ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩 48.0%)	1年生雑草 200~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水 50~100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25~50ℓ/10a)。	1. りんごでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. 5年生以下のりんごわい性台木樹では薬害の確認が十分ではないため、多量量での使用は避ける。 5. ラウンドアップマックスロードは魚毒に注意する。
	草枯らし (グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%)	1年生雑草 250~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水 50~100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25~50ℓ/10a)。	1. りんごでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	ザクサ液剤 (グリホサートPナトリウム塩 11.5%)	1年生雑草 300~500ml 多年生雑草 500~750ml	1. 水 100~150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. りんごでの使用時期は収穫21日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	バスタ液剤 (ケルボネート 18.5%)	1年生雑草 300～500ml 多年生雑草 500～1,000ml	1. 水 100～1500 に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. りんごでの使用時期は収穫 21 日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. 秋冬期に散布した場合は、効果の発現に25日程度要する。また処理後に耕起はしない。収穫後の処理となるので次年度の処理回数に加算する。
	ブリグロックSL (ジクワット7.0% パラコート 5.0%)	1年生雑草 800～1,000ml	1. 水 1500 に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. りんごでの使用時期は収穫前日までである。 2. 接触型茎葉処理剤であるので、雑草全体によくかかるように散布する。 3. 作物に飛散しないように散布する。 4. 除草剤用展着剤を加用する。 5. 日照の少ない夕方や曇天の時使用すると効果が高まる。
雑草発生前に土壌処理	ロロックス (リニロン 50.0%)	1年生広葉雑草 300g	1. 水 100～1500 に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. りんごでの使用時期は収穫 30 日前までである。 2. イネ科雑草に対する効果はやや劣る。
春期雑草発生初期に土壌処理	カソロン粒剤 6. 7 (DBN 6.7%)	多年生広葉雑草 8～10kg	1. 雑草の株元に手で散布する。	1. 成木園でのみ使用する。 2. 夏期は効果が低く、薬害発生の危険性があるので使用しない。
雑草発芽前に土壌処理	カーメックスD (DCMU 80.0%)	1年生雑草 雑草発芽前 100～200g	1. 水 70～1000 に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. 砂質土壌、幼木園では薬量を少なめにする。 2. 広葉宿根草、特にオオバコには効果が劣る。 3. 除草剤加用の農薬登録を有する展着剤を使用する。
雑草生育期に茎葉処理		雑草生育期 200～400g		

(2) なし

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ザクサ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで (雑草生育期)	3 回以内(ケルシネート及び ケルシネート P3 回以内)	果樹類(かんきつ、りんご、びわ、いちじく(種子)、くり、キウフルーツ、食用桑(果実)、さんしよ(果実)を除く)
サンダーボルト007	雑草茎葉散布	収穫 7 日前まで(雑草生育期)	3 回以内(グリホサート 3 回以内、ヒラフルフェンエチル 3 回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)
タッチダウン i Q	雑草茎葉散布	収穫 5 日前まで(雑草生育期)	3 回以内(グリホサート 3 回以内)	果樹類(かんきつを除く)
バスタ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで(雑草生育期)	3 回以内(ケルシネート及び ケルシネート P3 回以内)	
ブリグロックス L	雑草茎葉散布	雑草生育期(但し、収穫前日まで)	5 回以内(シクワット 5 回以内、ハラクート 5 回以内)	果樹類(かんきつを除く)
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	収穫 7 日前まで(雑草生育期)	3 回以内(グリホサート 3 回以内)	果樹類(かんきつを除く)
ロロックス	全面土壌散布	雑草発生前～発生始期(但し、収穫 90 日前まで)	1 回(リニユロン 1 回)	
草枯らし	雑草茎葉散布	収穫 7 日前まで(雑草生育期)	3 回以内(グリホサート 3 回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)

- 注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。
- 注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。
- 注3) 「使用回数」は、農作物の生産に用いた種苗のは種又は植付け(は種又は植付けのための準備作業を含み、果樹、茶その他の多年生の植物から収穫されるものにあつては、その収穫の直前の収穫とする。)から当該農作物の収穫に至るまでの間(「生育期間」という)において農薬を使用することができる総回数である。
- 注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	サンダーボルト007 (グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ピラフルフェンエチル 0.16%)	1年生及び多年生雑草 400~600ml	1. 水 100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. なしでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	タッチダウン i Q (グリホサートカリウム塩 44.7%)	1年生雑草 250~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水 25~50ℓ に溶かし専用ノズルを使用し、噴霧器で10aに均一散布する。	1. なしでの使用時期は収穫5日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. タッチダウン i Qは、魚毒に注意する。
	ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩 48.0%)	1年生雑草 200~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水 50~100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25~50ℓ/10a)。	1. なしでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. ラウンドアップマックスロードは、魚毒に注意する。
	草枯らし (グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%)	1年生雑草 250~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水 50~100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25~50ℓ/10a)。	1. なしでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	ザクサ液剤 (グリホサートPナトリウム塩 11.5%)	1年生雑草 300~500ml 多年生雑草 500~750ml	1. 水 100~150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. なしでの使用時期は収穫前日までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	バスタ液剤 (グリホサート 18.5%)	1年生雑草 300~500ml 多年生雑草 500~750ml	1. 水 100~150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. なしでの使用時期は収穫前日までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	ブリグロックスL (ジクワット7.0% パラコート5.0%)	1年生雑草 800～1,000ml	1. 水150ℓに溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. なしでの使用時期は収穫前日までである。 2. 接触型茎葉処理剤なので、雑草全体によくかかるように散布する。 3. 作物に飛散しないように散布する。 4. 除草剤加用の農薬登録を有する展着剤を使用する。 5. 日照の少ない夕方や曇天の時使用すると効果が高まる。
雑草発生前に土壌処理	ロロックス (リニロン50.0%)	1年生広葉雑草 300g	1. 水100～150ℓに溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. なしでの使用時期は収穫90日前までである。 2. イネ科雑草に対する効果はやや劣る。

(3) ぶどう

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ザクサ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート及びグリホサートP3回以内)	果樹類(かんきつ、りんご、びわ、いちじょう(種子)、くり、キウイフルーツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実)を除く)
サンダーボルト007	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内、ピラフルフェンエチル3回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)
タッチダウンiQ	雑草茎葉散布	収穫5日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつを除く)
バスタ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート及びグリホサートP3回以内)	
プリグロックスL	雑草茎葉散布	雑草生育期(但し、収穫前日まで)	5回以内(シクワット5回以内、パラコート5回以内)	果樹類(かんきつを除く)
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつを除く)
草枯らし	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 「使用回数」は、農作物の生産に用いた種苗のは種又は植付け(は種又は植付けのための準備作業を含み、果樹、茶その他の多年生の植物から収穫されるものにあつては、その収穫の直前の収穫とする。)から当該農作物の収穫に至るまでの間(「生育期間」という)において農薬を使用することができる総回数である。

注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	サンダーボルト007 (グリホサートイソプロピルアミン塩30.0% ピラフルフェンエチル0.16%)	1年生及び多年生雑草 400~600ml	1. 水1000に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. ぶどうでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	タッチダウンiQ (グリホサートカリウム塩44.7%)	1年生雑草 250~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水25~500に溶かし専用ノズルを使用し、噴霧器で10aに均一散布する。	1. ぶどうでの使用時期は収穫5日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. タッチダウンiQは魚毒に注意する。

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	ラウンドアップ マックスロード (グリホサートカリウム塩 48.0%)	1年生雑草 200～500ml 多年生雑草 500～1,000ml	1. 水 50～100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25～50ℓ/10a)。	1. ぶどうでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. ラウンドアップマックスロードは魚毒に注意する。
	草枯らし (グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%)	1年生雑草 250～500ml 多年生雑草 500～1,000ml	1. 水 50～100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25～50ℓ)。	1. ぶどうでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので、作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	ザクサ液剤 (グリホサートPナトリウム塩 11.5%)	1年生雑草 300～500ml 多年生雑草 500～750ml	1. 水 100～150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. ぶどうでの使用時期は収穫前日までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	バスタ液剤 (グリホサート 18.5%)	1年生雑草 300～500ml 多年生雑草 500～750ml	1. 水 100～150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. ぶどうでの使用時期は収穫前日までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	ブリグロックスL (ジクワット 7.0% パラコート 5.0%)	1年生雑草 800～1,000ml	1. 水 150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. ぶどうでの使用時期は収穫前日までである。 2. 接触型茎葉処理剤であるので、雑草全体によくかかるように散布する。 3. 作物に飛散しないように散布する。 4. 除草剤用展着剤を加用する。 5. 日照の少ない夕方や曇天の時使用すると効果が高まる。

(4) もも

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ザクサ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート及びグリホサートP3回以内)	果樹類(かんきつ、りんご、びわ、いちじょう(種子)、くり、キウフルーツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実)を除く)
サンダーボルト007	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内、ピラフルフェニチル3回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)
バスタ液剤	雑草茎葉散布	収穫前日まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート及びグリホサートP3回以内)	
プリグロックスL	雑草茎葉散布	雑草生育期(但し、収穫前日まで)	5回以内(シクワット5回以内、パラコート5回以内)	果樹類(かんきつを除く)
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつを除く)
草枯らし	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつ、パイナップルを除く)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 「使用回数」は、農作物の生産に用いた種苗のは種又は植付け(は種又は植付けのための準備作業を含み、果樹、茶その他の多年生の植物から収穫されるものにあつては、その収穫の直前の収穫とする。)から当該農作物の収穫に至るまでの間(「生育期間」という)において農薬を使用することができる総回数である。

注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

【総括注意】

1. ラウンドアップマックスロードは魚毒が強いので注意する。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	サンダーボルト007 (グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ピラフルフェニチル 0.16%)	1年生及び多年生雑草 400~600ml	1. 水1000に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. ももでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩 48.0%)	1年生雑草 200～500ml 多年生雑草 500～1,000ml	1. 水 50～100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25～50ℓ/10a)。	1. ももでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. 5年生以下のももでは葉害の確認が十分ではないため、多薬量での使用は避ける。 5. ラウンドアップマックスロードは魚毒に注意する。
	草枯らし (グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%)	1年生雑草 250～500ml 多年生雑草 500～1,000ml	1. 水 50～100ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水 25～50ℓ/10a)。	1. ももでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	ザクサ液剤 (グリホサートPナトリウム塩 11.5%)	1年生雑草 300～500ml 多年生雑草 500～750ml	1. 水 100～150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. ももでの使用時期は収穫前日までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	バスタ液剤 (グリホサート 18.5%)	1年生雑草 300～500ml 多年生雑草 500～750ml	1. 水 100～150ℓ に溶かして噴霧器で10a均一散布する。	1. ももでの使用時期は収穫前日までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。
	プリグロックスL (シクワット 7.0% パラコート 5.0%)	1年生雑草 800～1,000ml	1. 水 150ℓ に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. ももでの使用時期は収穫前日までである。 2. 接触型茎葉処理剤であるので、雑草全体によくかかるように散布する。 3. 作物に飛散しないように散布する。 4. 除草剤用展着剤を加用する。 5. 日照の少ない夕方や曇天の時使用すると効果が高まる。

(5) かき

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
カーメックスD	雑草茎葉散布	雑草生育期	1回(DCMU1回)	
	全面土壌散布	雑草発芽前		
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	果樹類(かんきつを除く)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 「使用回数」は、農作物の生産に用いた種苗のは種又は植付け(は種又は植付けのための準備作業を含み、果樹、茶その他の多年生の植物から収穫されるものにあつては、その収穫の直前の収穫とする。)から当該農作物の収穫に至るまでの間(「生育期間」という)において農薬を使用することができる総回数である。

注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注意事項
雑草生育期に茎葉処理	ラウンドアップマックスロード(グリホサートカリウム塩48.0%)	1年生雑草 200~500ml 多年生雑草 500~1,000ml	1. 水50~100ℓに溶かして噴霧器で10aに均一散布する(少量散布は水25~50ℓ/10a)。	1. かきでの使用時期は収穫7日前までである。 2. 吸収移行型除草剤なので作物に飛散しないように散布する。 3. 展着剤は加用しない。 4. ラウンドアップマックスロードは、魚毒に注意する。
雑草発芽前に土壌処理	カーメックスD(DCMU80.0%)	1年生雑草 雑草発芽前 100~200g	1. 水70~100ℓに溶かして10aに均一散布する。	1. 砂質土壌、幼木園では薬量を少なめにする。 2. 広葉宿根草、特にオオバコには効果が劣る。 3. 除草剤加用の農薬登録を有する展着剤を使用する。
雑草生育期に茎葉処理		雑草生育期 200~400g		

(6) うめ

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
プリグロックスL	雑草茎葉散布	雑草生育期(但し、収穫前日まで)	5回以内(ジクット5回以内、ハラコート5回以内)	果樹類(かんきつを除く)

- 注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。
- 注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。
- 注3) 「使用回数」は、農作物の生産に用いた種苗のは種又は植付け(は種又は植付けのための準備作業を含み、果樹、茶その他の多年生の植物から収穫されるものにあつては、その収穫の直前の収穫とする。)から当該農作物の収穫に至るまでの間(「生育期間」という)において農薬を使用することができる総回数である。
- 注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する

防除時期及び処理方法	除草剤の種類	対象雑草と10a当りの使用量	使用法	注 意 事 項
雑草生育期に茎葉処理	プリグロックスL (ジクット7.0% ハラコート5.0%)	1年生雑草 800~1,000ml	1. 水1500に溶かして噴霧器で10aに均一散布する。	1. うめでの使用時期は収穫前日までである。 2. 接触型茎葉処理剤なので、雑草全体によくかかるように散布する。 3. 作物に飛散しないように散布する。 4. 除草剤加用の農薬登録を有する展着剤を使用する。 5. 日照の少ない夕方や曇天の時使用すると効果が高まる。

(7) 果樹類

・参考農薬

薬剤名	適用雑草	使用方法	使用時期	使用量	使用回数	魚毒	備考
カルナクス	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期:草丈30cm以下)	250～500mℓ/10a	3回以内 (グリホサート3回以内)	II	果樹類 (かんきつ、パナップルを除く)
	多年生雑草			500～1000mℓ/10a			
サンダーボルト007	一年生及び多年生雑草	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	400～1000mℓ/10a	3回以内 (グリホサート3回以内、ヒラフルフェンエチル3回以内)	II	果樹類 (かんきつ、パナップルを除く)
タッチダウンi Q	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫5日前まで(雑草生育期)	250～500mℓ/10a	3回以内 (グリホサート3回以内)	III	果樹類 (かんきつを除く)
	多年生雑草			500～1000mℓ/10a			
ブリグロックスL	一年生雑草	雑草茎葉散布	雑草生育期(但し、収穫前日まで)	800～1000mℓ/10a	5回以内 (ジクワット5回以内、パネコート5回以内)	II	果樹類 (かんきつを除く)
	多年生雑草			1500～2000mℓ/10a			
レグロックス	果樹園下草 一年生雑草	雑草茎葉散布	雑草生育期(但し、収穫30日前まで)	300～500mℓ/10a	5回以内 (ジクワット5回以内)	I	果樹類
草枯らし	一年生雑草	雑草茎葉散布	収穫7日前まで(雑草生育期)	250～500mℓ/10a	3回以内 (グリホサート3回以内)	II	果樹類 (かんきつ、パナップルを除く)
	多年生雑草			500～1000mℓ/10a			

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 「使用回数」は、農作物の生産に用いた種苗のは種又は植付け(は種又は植付けのための準備作業を含み、果樹、茶その他の多年生の植物から収穫されるものにあつては、その収穫の直前の収穫とする。)から当該農作物の収穫に至るまでの間(「生育期間」という)において農薬を使用することができる総回数である。

注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

【総括注意】

1. タッチダウンi Qは魚毒が強いので注意する。